

近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究(ホ06)

目 的 近代の文化遺産は、絵画、彫刻、木造建造物等従来の文化財とは、規模、材質、製造方法等に大きな違いがあるため、その保存修復方法や材料にも大きな違いがある。本研究では、近代の文化遺産の保存修復を行う上で必要とされる材料と技術について調査研究を行う。具体的には大型建造物の劣化機構の解明とその修復方法の究明、航空機、船舶、鉄道車両等の保存修復上の問題点とその解決方法の究明を目指している。

- 成 果**
1. 近代文化遺産の活用事例に関するアンケート調査の実施
2018(平成30)年4月に改正された文化財保護法により、活用に大きく舵を切った文化財保護行政を踏まえ、活用を目指した修理をどのように実施したのか、どのような活用方法を目指しているのか調査研究するために、近代文化遺産の活用に関する対応を知るために日本各地にアンケートをお願いし、回答を得た。
 2. 旧志免鉱業所竪坑櫓における修復に対する助言
旧志免町鉱業所の修理工事に際して、使用されている塗料に関する調査分析、及びコンクリート建造物の屋上防水に関する調査研究を実施した。
 3. 失われる伝統技術の記録作成
無形文化遺産部と共同で、三味線の製造元である「東京和楽器株式会社」での記録作成を実施した。
 4. 紙資料の保存技術の調査研究
航空資料の保存に関する調査研究を実施した。
 5. 近代文化遺産の保存活用に関して地方自治体が組織する調査検討の委員会への参画
全国各地の自治体が組織する近代文化遺産の保存活用に関する調査検討委員会に委嘱を受けて参加し、近代文化遺産の保存と修復に関する調査、助言を行った。
 6. 報告書の刊行
令和2年度に実施した近代の建造物(洋館)の内部造作の保存と修復に関する研究内容を報告書に取りまとめた。また、2018(平成30)年に発行した「鉄建造物の保存と修復」の英語版を刊行した。

報 告・中山俊介：「内部造作の保存と修復に関する事例集」『未来につなぐ人類の技 20 内部造作の保存と修復』 pp.83-105 21.3

発 表・中山俊介：「近代文化遺産の保存と活用」近代文化遺産の保存と活用に関するシンポジウム 20.12.4

・中山俊介：「第5 福竜丸の保存について」「ふね遺産」認定記念シンポジウム 21.2.21

刊行物・『未来につなぐ人類の技 20 内部造作の保存と修復』 21.3

・『Conservation and Restoration of Steel Structures』 21.2

研究組織 ○早川泰弘、中村舞、鳥海秀実(以上、保存科学研究センター)、中山俊介(特任研究員)、簡佑丞、荻田重賀(以上、客員研究員)、鈴木一義(国立科学博物館)